

平成20年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：ダイズ害虫一般（カメムシ類 3、ハスモンヨトウ 3）

平成20年9月24日
鳥取県病害虫防除所

情報の内容

9月17～20日に行った県内巡回調査の結果、カメムシ類の発生は平年並であるが、一部のほ場では幼虫が多発している。ほ場の観察を十分に行い、カメムシ類の密度が高い場合は、直ちに防除する。

一方、ハスモンヨトウの発生は平年より少なく、今後、ほ場における本虫の増加は緩慢であると予想される。

1 カメムシ類

(1) 発生状況

ア 9月20日現在、発生ほ場率は66.7%（平年：59.3%）、25株当たり平均成幼虫数は2.4頭（平年：2.9頭）で、平年並の発生である。

イ 防除が不十分と思われる一部のほ場では、幼虫が多発している。

ウ 現地ほ場では、ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ及びアオクサカメムシの発生がみられる。発生の主体は、成虫及び中～老齢幼虫である。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 8月下旬～9月中旬にカメムシ類の防除を行っていないほ場では、発生密度に注意し、発生が多い場合は直ちに防除を行う。

イ 上記の期間に防除を行っているほ場においても、発生密度が高い場合は、粉剤、乳剤、水溶剤などで追加防除を行う。

2 ハスモンヨトウ

(1) 発生状況

ア 9月20日現在、発生ほ場率は85.4%（平年：93.2%）で、平年よりやや低く、1a当たりの平均白変か所数は1.2か所（平年：3.9か所）で、平年より少ない。

イ 発生の主体は、若～中齢幼虫であるが、一部のほ場では老齢幼虫が混在している。

ウ 9月第2半旬現在、フェロモントラップにおける雄成虫の総誘殺数は、平年に比べてやや少ない。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 今後、ほ場における本虫の増加は緩慢であると予想される。

イ 現在、白変葉及び中～老齢幼虫の発生が多いほ場では、ロムダン粉剤DL、ミミックジョーカー粉剤DL、マトリックジョーカー粉剤DLなどを散布する。